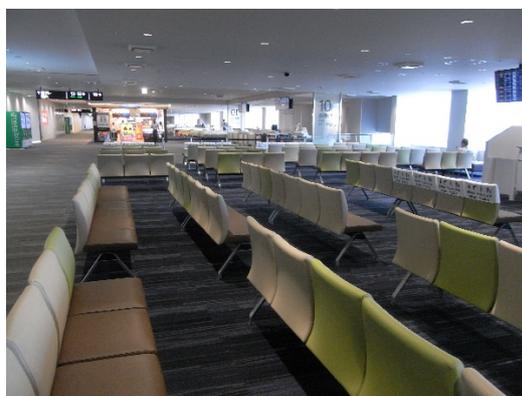


水道ジャーナリスト・有村源介の
源流 本流 汽水城
NO.32 「G o T o」を使ってみたが…



人通りが絶えた那覇・国際通り（10月5日）



閑散とした福岡空港国内線出発ロビー（10月23日）

新型コロナ感染症が拡大し続ける中で2021年は始まった。政府は有効な手だてを打てないまま、年が押し詰まってから「G o T o」を停止した。「G o T oと感染拡大は関係ない」「関係あると言うエビデンスはない」と言い張っていたが、ようやく諦めて停止にした。支持率が下がらないと、本気で考えようとしなないのは困ったものである。

悪評紛々たる「G o T o」の利用者は5200万人泊といった数字がでている。

私は生来の酒好きから、仕事と遊びの区別がつかず、コロナ感染拡大の2020年も渾然一体の日々を送っていた。時に非常識といえる日程を組むことがあり、2019年の12月は宮城県丸森町災害現場→東大初講義→その日の夕方、積水新社屋お披露目→翌朝からミャンマーへ→帰国翌日沖縄へ飛んで夜の打ち合わせ→翌朝座談会司会→午後、沖縄水勉強会講演→翌日、地元企業訪問——という日程で、40代50代の時にも、こんな日程を強行する事はなかった。

20代30代の時はそういう日程を組めるような力はなかった。もしかして、70歳を越えて体力がついたのではないかと自慢している。「すごいねえ」とか「大したもんだ」とか褒めて頂いている内は良いが、小声で、「有村さん、経済的な理由でそんなに働いているんじゃないよね…？」と余計な心配をかけることもある。小金を持っていると思われるよりも同情されている方が何かと便利かもしれないが、「1人親方商売」なので、金銭の不安を持たれるのもどうかとは思ふ。最高傑作は、「有村はボケが進んで、(引退すべき)自分の年が分からなくなっている」という高評価(?)で、これはお言葉を有り難く頂戴している。

「不要不急の移動はなるべく控えよ、出歩くな」という要請と、「G o T oだどこんなにお得！」という訳の分からない政策(と言えるものか?)の結果、行動がどっちつかずになり、結果、感染が急拡大ということになったのはご存知の通り。私の取材活動は、月刊「コ

ア」の「次世代を担う衛生・環境工学者インタビュー」を中心に行っており、出版社及び広告協賛企業との契約がある限り必要不可欠のものなので、コロナ感染症が拡大しようが小幅になろうが行動することになる。当然、「G o T o」の恩恵を受けることになったが、航空券や宿の手配はすべて旅行代理店の窓口で依頼した。

東京は除外するという措置は、首都圏の一体性をみると、全く意味のない区切りで、住んでいる場所も事務所の所在地も多摩川をわたって東京に隣接している地域にある私は、一貫してG o T oの対象になってきた。

その中で最も極端な例は、沖縄2泊3日で羽田・那覇空港往復フライトと沖縄県庁前ビジネスホテル2連泊の料金が1万6000円というチケットだった。それに5000円の地域クーポン券がついていた。「価格変動型チケット」という私には理解不能なチケットにG o T oを組み合わせたもの、という話だったが、これはいくら何でも常軌を逸している。

適性価格というものがあるだろう、と、得をした気持ちよりも、苦々しい思いがあった。その思いをより一層強くさせたのが、「地域共通クーポン券」である。10月5日時点で、那覇空港内の飲食店は使用できず、土産物屋のみが使用可能で、国際通りでは大規模店のみ「利用可能」の張り紙があった。市内の飲食店でも使用不可で、訊ねる度に「申し訳ございません」と頭を下げられてしまう。聞くところによると、大手コンビニ3社はスタート時点から利用できたといい、「地元の観光業の支援策」という謳い文句は、全く実現されておらず、虚偽であった。

又、日帰りできる隣接県は利用可能ということから、沖縄のクーポンには「鹿児島県利用可能」とあった。500km離れている鹿児島が隣接県か。だったら、小笠原村も遙か太平洋を隔てて隣接している。現実にそういうケースがあったようで、静岡県を訪問した時のクーポンは東京都内で利用できたらしい。理由は、大島や利島など伊豆七島、つまり、隣接している(?)東京都には熱海や下田からの高速船で日帰りが可能なので、隣接県とのことである。

さらに、旅行会社窓口でクーポンを受け取った第一印象は、「偽クーポンとも言えないようなコピーが出回るだろうな」というものだった。果たして、すぐに偽クーポンが出たという話が広まったか、G o T o 2度目の福岡出張時のクーポンはスマホにダウンロードする電子クーポンだった。

「申し訳ございません、これが実は評判が悪いのですが…」と言われた電子クーポンは、QRコードをスマホで撮影して読み取る方式だった。旅行当日の15時以降にしかダウンロードできないことや、G o T o利用者は高齢者が多いとみえ、そもそもダウンロードできない客からクレームがあったのか、3度目の鳥取出張時には、クーポン券は、又、紙に戻っていた。そういう仕組み上の不完全さよりも、遊びや飲み食いに税金、しかも後の世代にツケ回すという破廉恥な行為は即刻、止めるべきだ、と怒っていたら、年末に停止になり、年明けの首相の会見では、「再開は難しいだろう」と情けない方針転換となった。

私自身は3度のG o T o利用出張で、2度地域クーポンを使ったが、1回数千円の利用で苦い思いをずっと抱える後味の悪さだけが残った。